

生食・調理加工兼用トマトF₁品種の育成

神奈川県農業技術センターでは、果実が長円筒形のトマトF₁品種「SPL25R」と「SPLG3」を育成しました。両品種とも生食・調理どちらにも適した特性を持ったユニークな果実です。

果実特性

- これまでにないイタリアンタイプの長円筒形の果実で、大きさは60～80gの中玉タイプです。
- 果肉が厚く、加熱しても形がしっかりと残ります。
- 糖度は大玉品種と同程度ですが、「SPL25R」はアミノ酸含有量が従来品種の**1.2倍**、リコペン含有量は**1.5倍以上**あります。また、「SPLG3」は橙黄色のため、リコペン含量は少ないのですが、その分プロリコペンを多く含みます。

栽培特性

- いずれも施設内での促成～半促成栽培に最も適しています。
- 1花房当たりの着花数が多く、S P L 25 Rは平均して5～7果、S P L G 3は6～9果程度着果します。
- いずれも果実の揃いがよく、葉色は極めて濃緑です。葉が小さいため全体として大変コンパクトな草姿になり、株間25cmでの栽培が最も適します。
- 茎は細く、節間は大玉品種と比べてやや長くなりますが、草姿は生育後半まで衰えません。
- 13～15段収穫で1株当たり4～6kgの収量が得られます。
- 果実が硬く、棚持ちも良いので十分に熟してから収穫することができます。
- 多肥、多灌水、寡日照条件下ではベースグリーンが、また、土壤水分が極端に不足すると尻腐れ果が発生しやすいので、特に灌水量に注意が必要です。



SPL25R



SPLG3